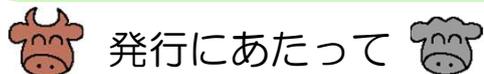




〒081-0038 北海道上川郡新得町字
新得西5線39番地1
Tel: (0156)64-0606 (グループ直通)
Fax: (0156)64-3212
<http://www.hro.or.jp/list/agricultural/research/sintoku/beef/beefhome.html>

Beef Up!



発行にあたって

久しぶりの発行となりました、ヒトもウシも研究内容も大きく変わりました。今後とも、試験場内の様子や最新の研究内容などを熱くご紹介していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします！今号では、昨年完了した最新の研究と、削蹄講習会などについてお伝えしたいと思います。

黒毛和種繁殖雌牛の放牧飼養

肉牛グループ研究主任 西道由紀子

肉牛Gの黒毛和種繁殖雌牛は、馴致もせず、春は一斉に上山し、秋も一斉に下山します。山とはいえ草地造成され傾斜も緩やかですが、広い草地を歩き回り冬の分娩に備えて筋力UPを期待しています。そんな我がGの牛たちは、年中牛舎にいる牛と比べ健康なのかを調査しました。

肉牛Gは冬に分娩させる季節繁殖で、分娩前後5か月間だけ濃厚飼料を給与します。5月下旬～11月中旬は放牧草+塩+水、それ以外はパドック付きの牛舎でGS+塩+水で、分娩&授乳&授精を済ませます。44頭の黒毛和種繁殖雌牛について、2018年1～12月に血液性状・体重・BCS、2019年1月から分娩状況などを調査しました。

放牧草はOG主体でかなり徒長し、秋は枯死物が増えました。それでも放牧草はGSよりNDFが多く、高栄養でした。放牧群の体重は上山直後から増え、舎飼群は11月以降に増えました(図)。一方、BCSは放牧群では放牧中に増えた後11～12月に減り、舎飼群では春から夏に増加しました(図)。両群とも11月以降は妊娠末期で、体重増加は胎児の成長分と考えられます。放牧群の11～12月のBCS減少分は体組織から胎児へ栄養を補給していることが予想され、体脂肪動員と筋肉からのアミノ酸動員により、肝臓負担と筋力低下の両面で影響が心配されます。調査牛のうち分娩は30頭、死産は両群1頭ずつでした。子牛のTPと出生時および1か月齢時の体重は両群同程度でした。舎飼群に比べ放牧群では、若い牛で分娩介助が多く、全体に受胎率が低い傾向にありました。本結果は一例ですが、黒毛和種繁殖雌牛の放牧は検討が必要と考えられました。

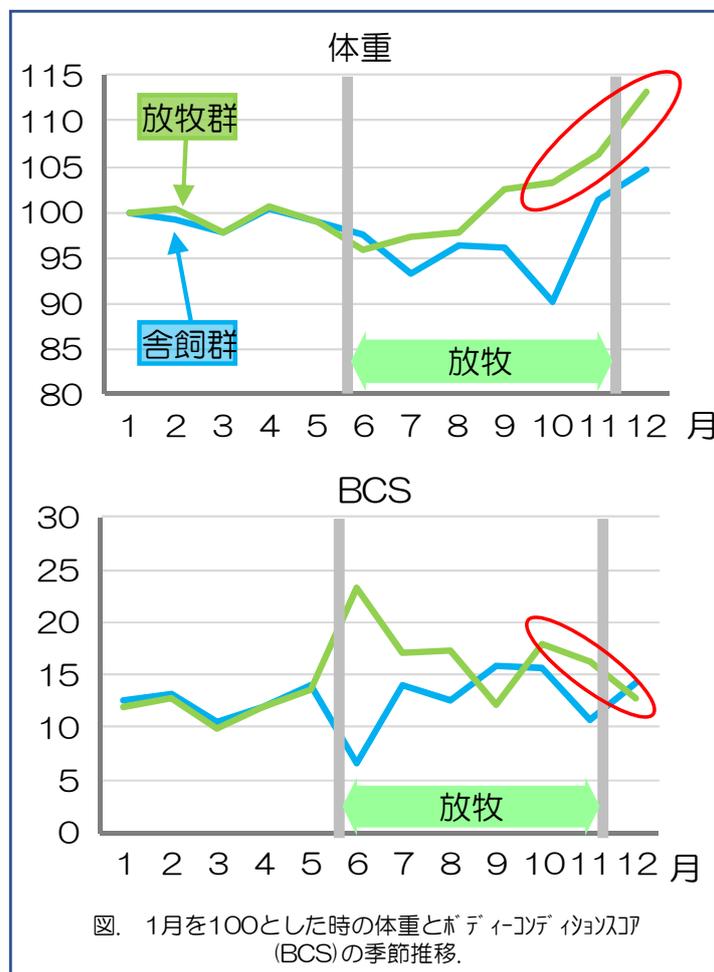


図. 1月を100とした時の体重とボディコンディションスコア(BCS)の季節推移。

GS: 牧草サイレージ、BCS: ボディコンディションスコア、OG: オーチャードグラス、NDF: 中性デタージェント繊維、CP: 粗たんぱく質、BUN: 血中尿素体窒素濃度、 γ -GT: γ -グルタミルトランスフェラーゼ濃度、TP: 生後2日目血中総タンパク質含量。

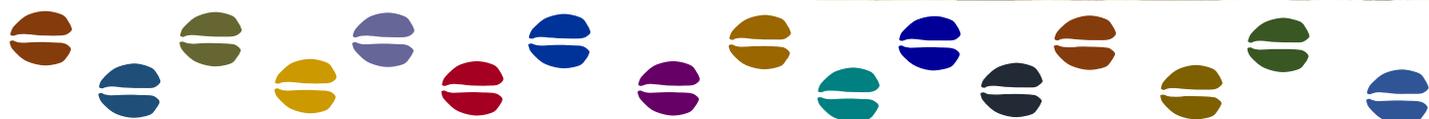
削蹄師講習会

肉牛グループ技師 畑山 亮太

2019年9月4、5日の2日間で2級認定牛削蹄師講習会及び認定試験を受講しました。肉牛グループに入って半年ほどの時期で、削蹄のこともさることながら牛の知識や経験もない状況なので、私自身とても良い機会となりました。

1日目は北見市のモイワスポーツワールドにて、牛に関する基本的な知識や削蹄に関してなどの講習と学科試験がありました。講習内容は削蹄する基準や蹄の様々な形状の原因、その形状から蹄のどの部分を削る必要があるかなどでした。事前に予習をしたほうが良いと周囲の先輩達にアドバイスを受けていたため、なんとか学科試験に臨めました。2日目は訓子府町にあるホクレンの実証農場でホルスタイン種を使い、牛の保定方法から道具の使い方まで指導を受けました。削蹄師の講師の方々を手本となり、1頭を数人で前後左右の蹄を使って実技講習を受けました。午後からの実技試験は2人で1頭の前足後足を削蹄するという内容でした。試験で用いた牛は練習の時の牛よりもおとなしい牛だったため、だいぶ助かりました。

講習会及び認定試験を通して知らないことが多く、戸惑いました。牛に関する知識のことや削蹄に使う道具は実践すると思ったように扱えないこと、削蹄中は牛に合わせてどのような姿勢を取る必要があるかなど本当に勉強になりました。削蹄師という専門で仕事をする人たちのことも今回で初めて知りました。話をする機会があり、農家さんに感謝される喜びや牛に蹴られる危険性、何頭も削蹄するため体力をととても使うことなど、貴重な話を聞くことができました。畜産試験場の肉牛で実際にやってみて、作業時間が他の先輩たちに比べだいぶ遅いことや削蹄基準が自身では判断しきれないこと、頭数をこなす体力の無さなど、合格してもまだまだ経験不足なことが多いと実感しています。今後も削蹄を実践し、精進していきたいと思いました。



おもしろスナップのコーナー

投稿：西道研究主任



「黒毛はタンも黒い」肥育試験牛舎にて



「いざ放牧地！」5月の放牧時にて

